



第2章 月形町の健康を

とりまく状況

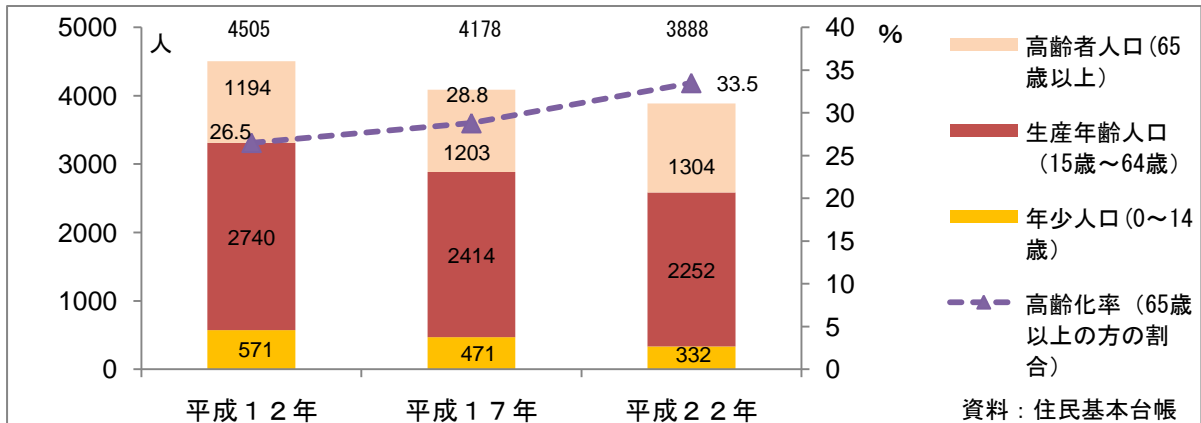
1 月形町の概況

月形町は空知管内の中部西端に位置する町で、面積151.05km²を有する、人口約3800人の米や花、メロンやスイカ、果菜などの農業が基幹産業の町です。

明治14年に樺戸集治監（樺戸監獄）が開庁され、空知管内第1号の村として誕生しました。

(1) 人口構成

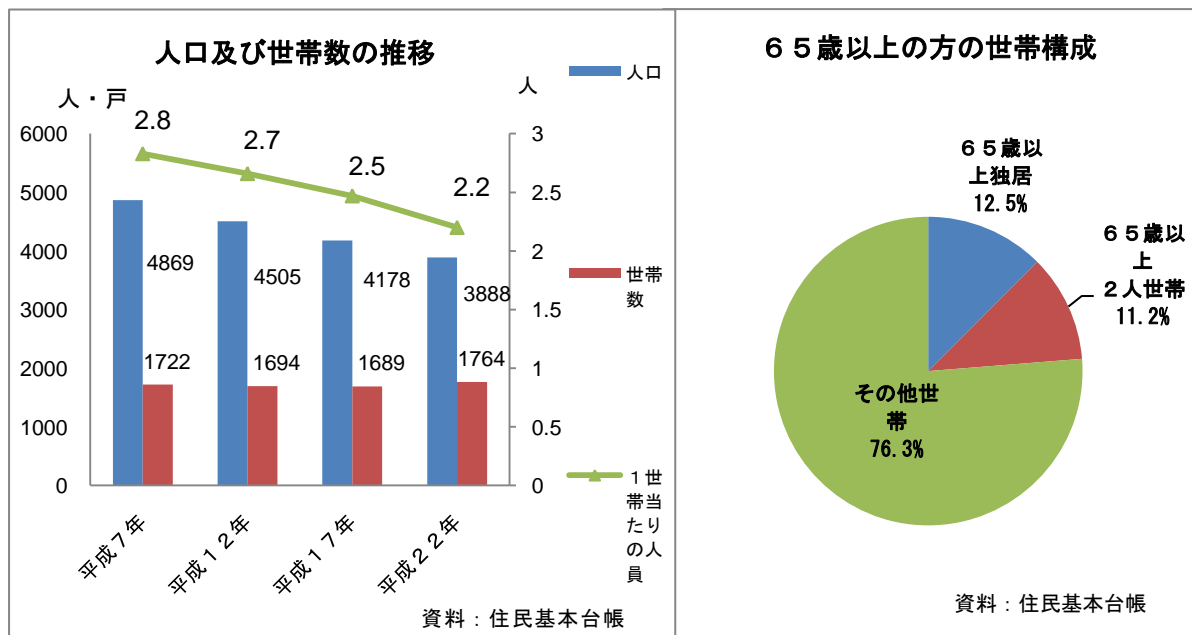
①総人口、年齢3区分別人口、高齢化率の推移



月形町の総人口は平成12年から平成22年の10年間で617名減少しており、一貫して減少傾向にあります。

年齢階層別人口構成で見ると、14歳以下の年少人口と、15歳~64歳の生産年齢人口は減少してきていますが、65歳以上の高齢者人口は年々増加し、今後の少子高齢化の傾向はすすんでいくものと考えます。

②世帯の状況



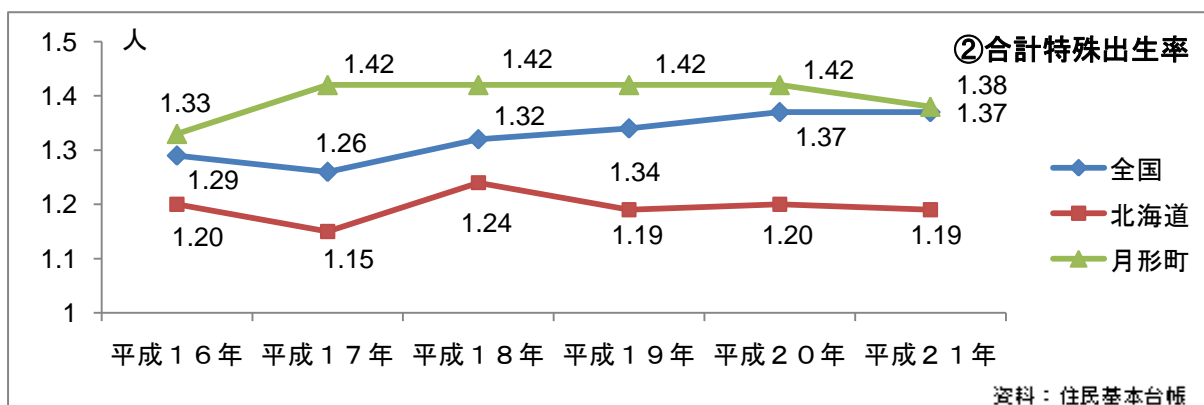
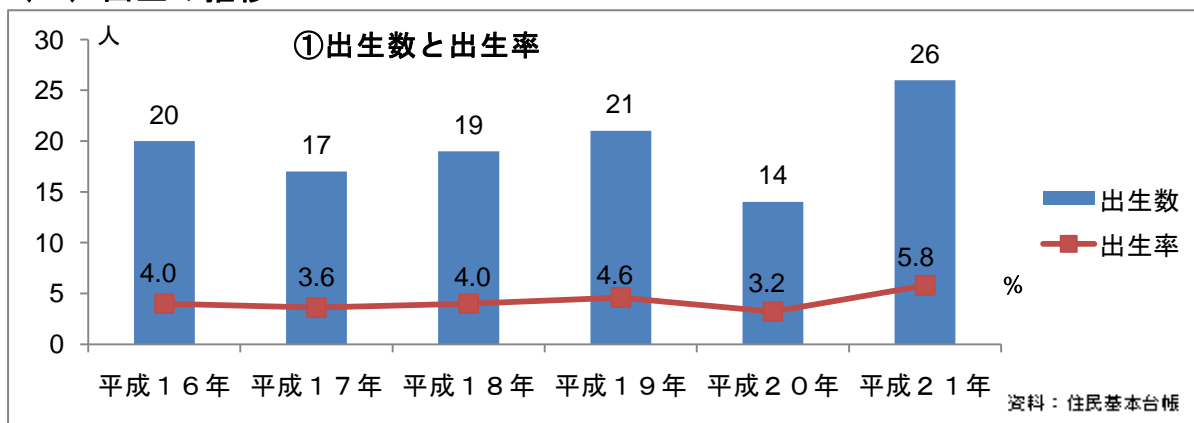
18歳以下の子どもがいる家族の世帯構成（H23.4.1時点）
 核家族68% 拡大家族等32%

平成7年から22年の15年間に人口は1000人以上減少しているにもかかわらず、世帯数はほぼ増減がないことから、1世帯あたりの人員の減少がみられており、平成22年には1世帯あたりが2.2名となっています。

65歳以上の高齢者の世帯状況をみると、4世帯に1世帯は独居または2人世帯となっています。

また、18歳以下の子どもがいる家族のうち、約70%が核家族世帯となっています。

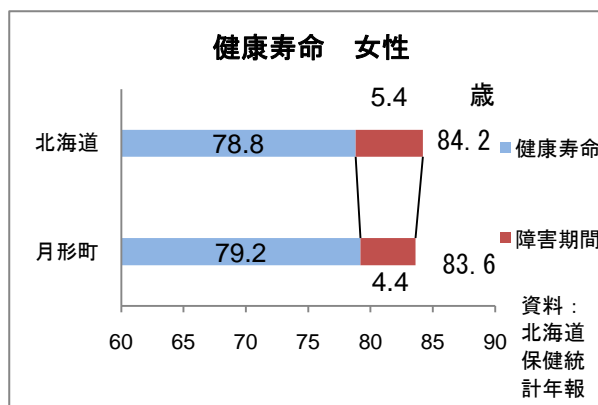
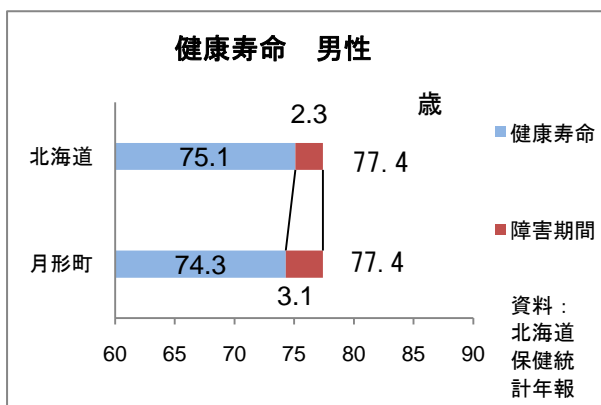
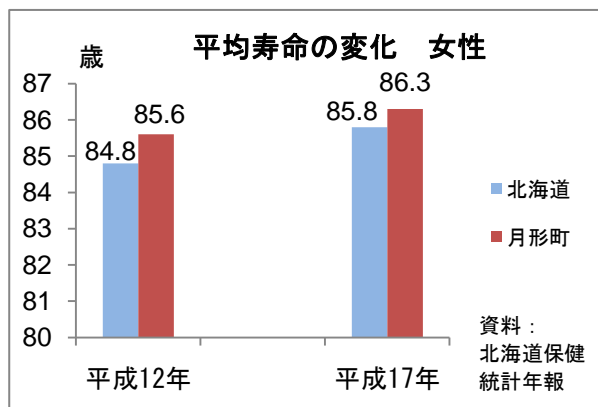
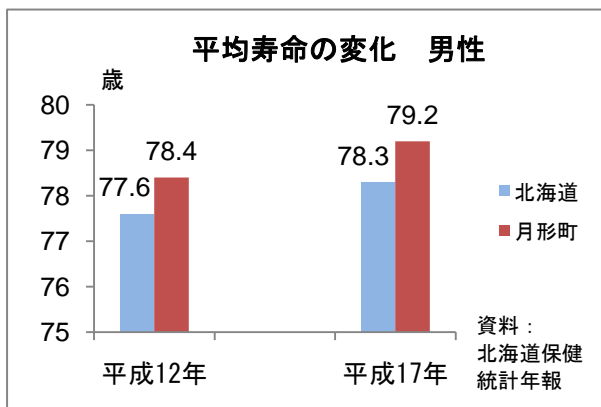
(2) 出生の推移



出生数は年ごとに差がみられるものの、ここ数年は20名前後で推移しています。出生率は人口千人あたり4人前後で保たれています。

1人の女性が一生に産む子どもの数を示す「合計特殊出生率」は平成16年以降、全国、全道よりも高かったのですが、平成21年に低下し、現在は全国と同水準といえます。

(3) 平均寿命と健康寿命

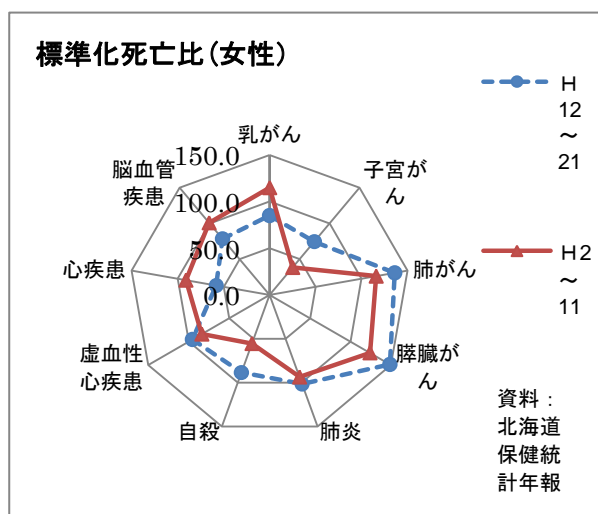
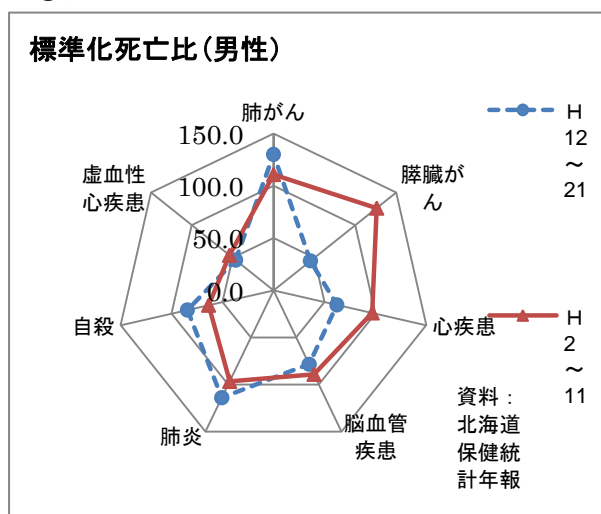


「平均寿命（平成17年）」は男性79.2歳、女性86.3歳で男女とも全道の平均寿命より長く、また年々延びています。平成12年と17年の平均寿命を比較すると、男性は0.8歳、女性は0.7歳延びています。（全道は男性0.7歳、女性1.0歳の伸び）

また、人生の中で健康で障害のない期間（介護を要しない期間）を示す、「健康寿命（平成16年）」は男性が全道に比べ、短い傾向にあり、やや障害期間が長いです。

(4) 死亡の状況

①標準化死亡比（SMR*）の推移

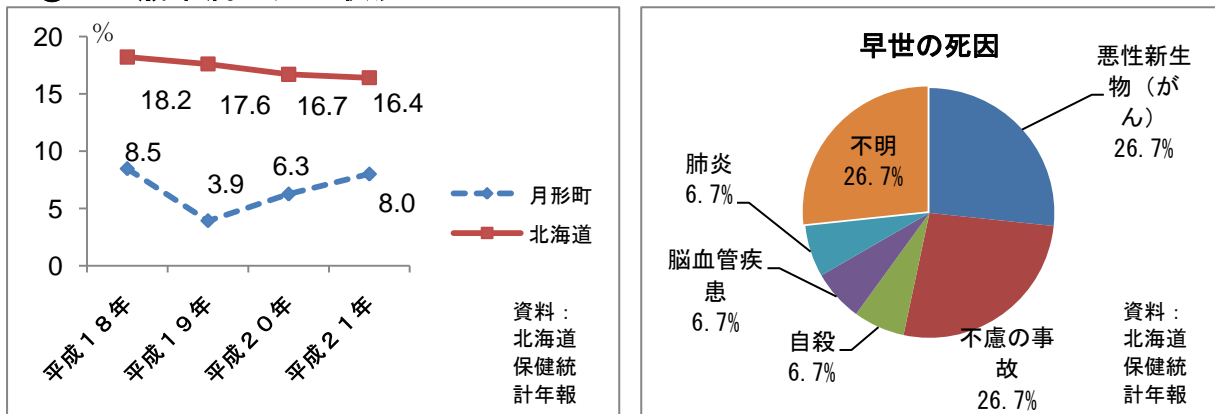


平成12年から21年の月形町の死因を全国と比較した標準化死亡比は男性の場合、「肺がん」「肺炎」「自殺」の順に高く、女性は「膵臓がん」「肺がん」「肺炎」の順に高くなっており、男女ともに「肺がん」、女性のみ「膵臓がん」は平成2年以降、継続して高い状況にあります。

また、男女ともに「自殺」「肺炎」、女性のみでは「子宮がん」が増加傾向にあります。

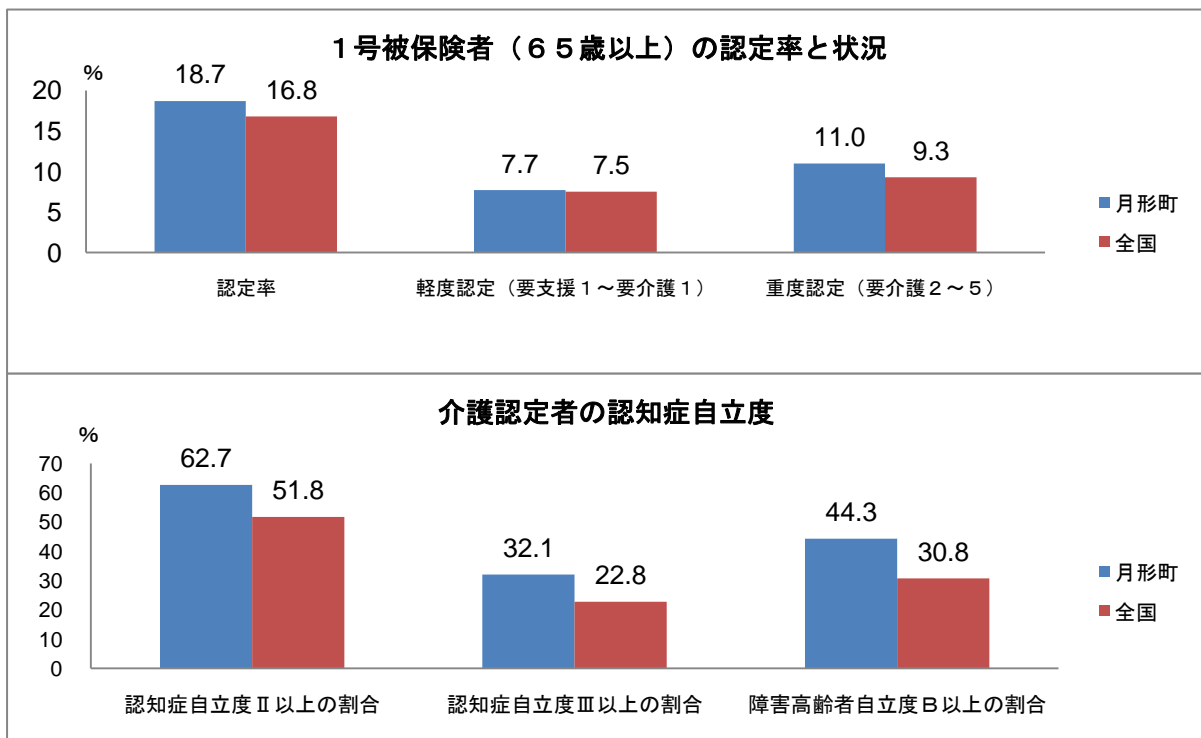
***標準化死亡比(SMR)：**死因は年齢によって大きな違いが出てしまうことが多いため、年齢構成の違いによる影響を除いて死亡率を全国と比較したもの。

② 65歳未満の死亡状況



65歳未満の死亡率（早世）は、年によって差があり、全道と比べると低くなっていますが、増加傾向にあります。死因としては悪性新生物（がん）、不慮の事故が約27%と多いです。

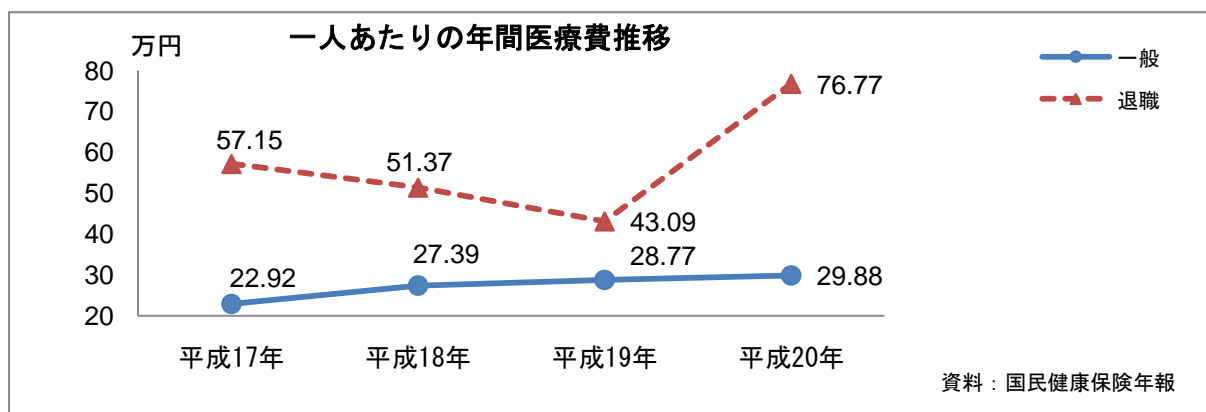
(5) 要介護認定者の状況と認知症度の状況 (要介護認定業務分析データ、22年～23年)



全国に比べ、月形町は要介護認定者の認知症の割合が全国より高く、しかも重症の認知症の割合も全国より高くなっています。認定を受ける人の年齢層の高さが原因の一つと思われますが、認知症者が多いことは介護が必要な人が増えることにもつながり、認知症予防が重要な課題となっています。

2 医療費の状況（月形町国民健康保険加入者分）

（1）一人あたりの年間医療費の推移

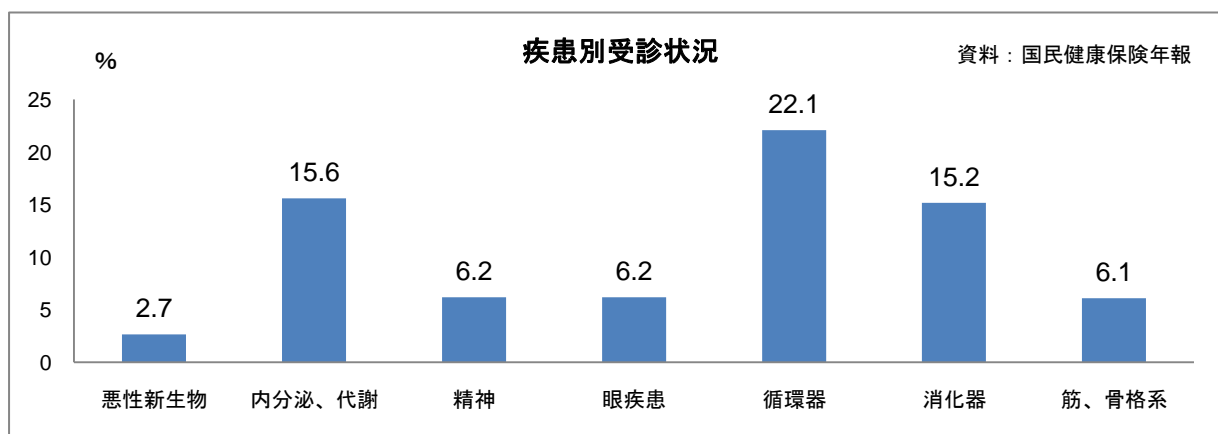


平成20年の一人あたりの年間医療費は一般被保険者*が年間29万8800円、退職被保険者*が76万7700円で平成17年度に比べるといずれも増加傾向にあり、特に退職被保険者の医療費の増加が大きいです。

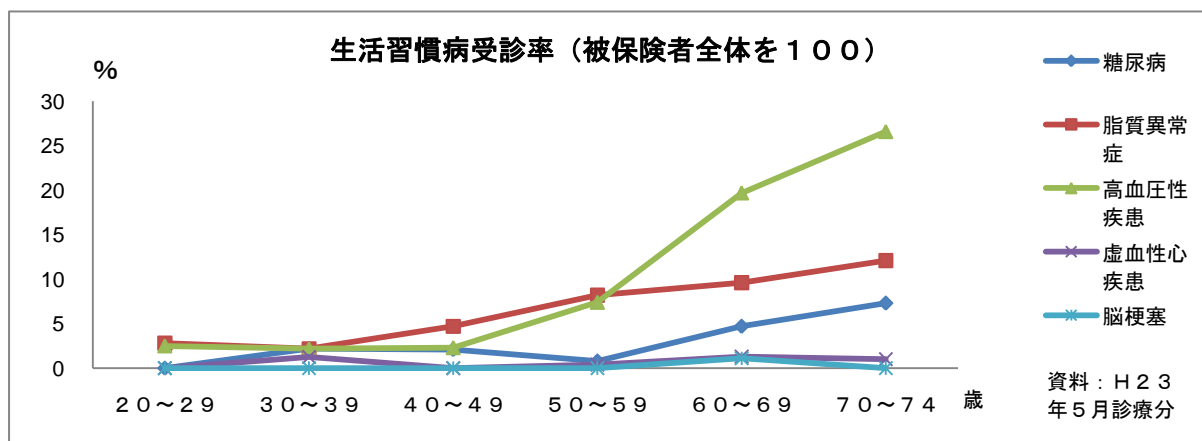
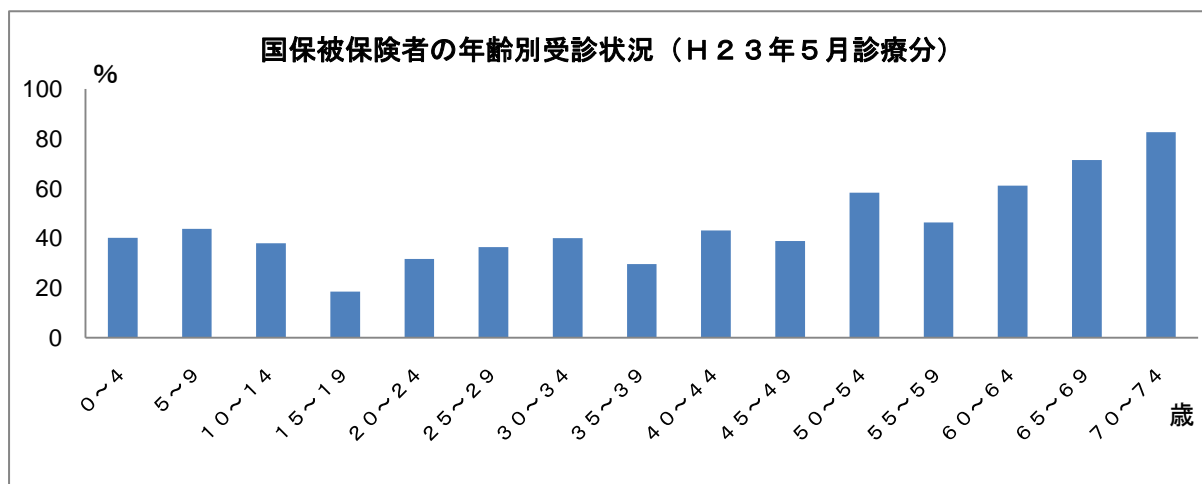
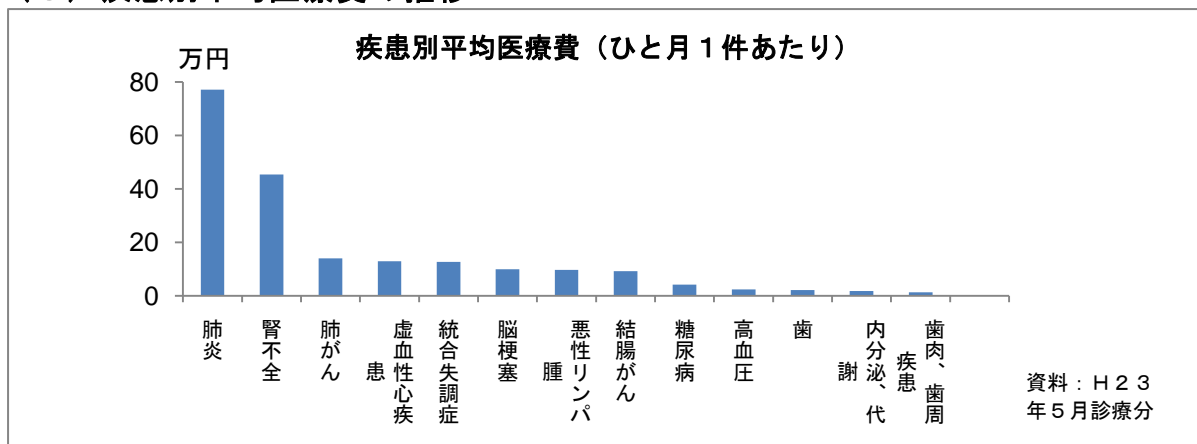
***退職被保険者**：共済年金や厚生年金を受けられる人で、年金の加入期間が20年以上、または40歳以上の国保の加入期間が10年以上ある人及びそのご家族。

***一般被保険者**：退職被保険者以外の国民健康保険加入者

（2）国民健康保険被保険者の受診状況（0～74歳）



(3) 疾患別平均医療費の推移



受診件数別では高血圧や心疾患などの循環器疾患が最も多くなっており、住民の5人に1人が受診しているといえます。疾患別にひと月の医療費を比べてみると、H23年5月分は肺炎が1件あたり77,145円で最も高額です。

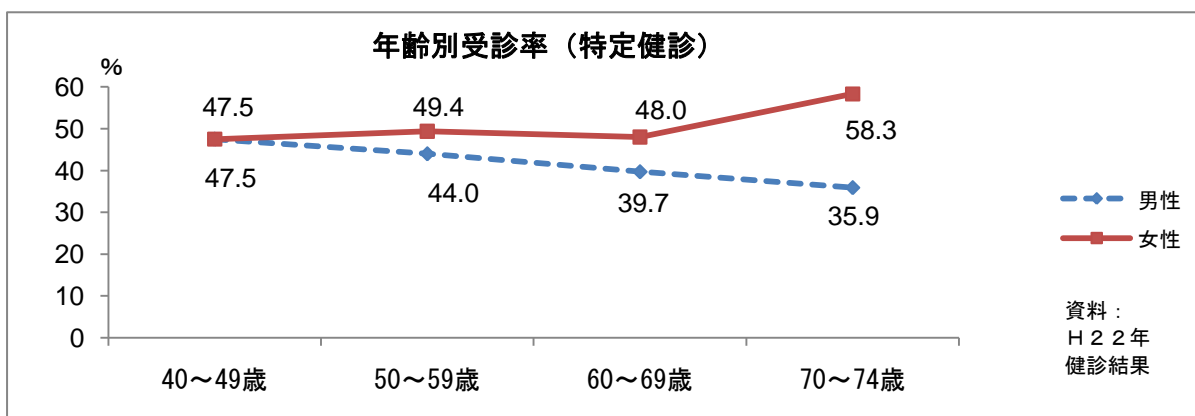
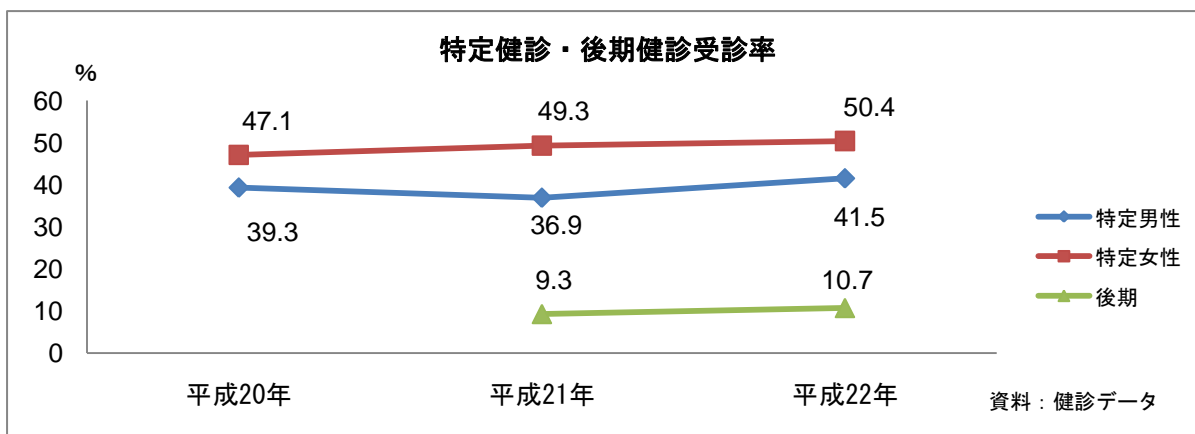
また、「腎不全」「肺がん」「虚血性心疾患」「統合失調症」が1件あたり10万円以上の高額の医療費となっています。

国保被保険者の皆さんの受診状況を見ると、60歳代以降、保険加入者の6割以上の方が何らかの受診をしている状況です。

また、生活習慣病の受診率を比較すると高血圧疾患は年齢とともに増加し、50歳代から60歳代に急増します。60歳代では被保険者の5人に1人が高血圧で受診しています。糖尿病、脂質異常症も年齢とともに緩やかな増加がみられます。

3 健康診断の状況

(1) 特定健診・後期高齢者健診の受診状況

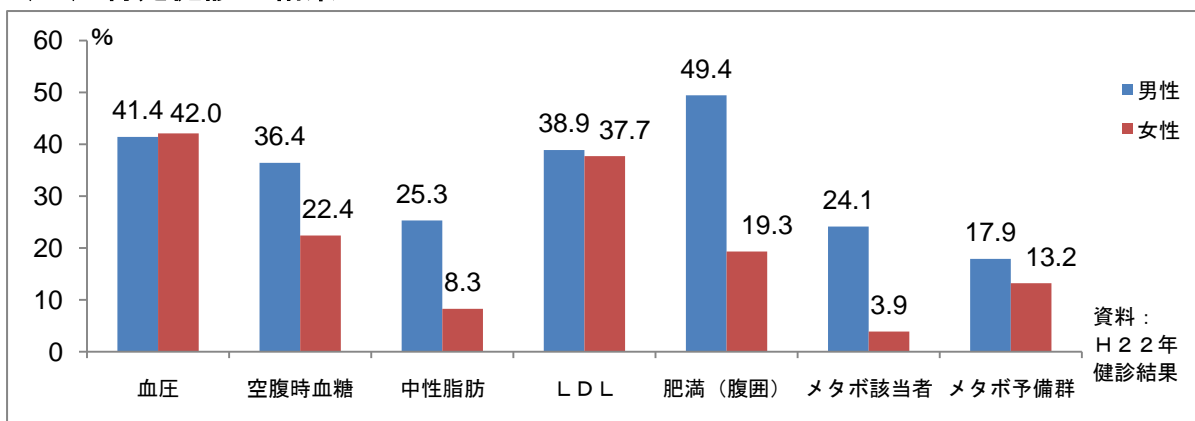


特定健診の受診率については、男女ともに伸びてきていますが、平成24年度の目標65%まで到達するには難しい状況です。住民の皆さんの健康づくりに対する更なる心がけが必要です。

年代別受診率をみると、男性は年齢とともに受診率が低下しています。健診未受診の理由として高いのが「既に医療機関を受診しているため」です。既に医療機関を受診している方もがん検診と合わせて、年に1度、ご自身の身体状況の確認のために健診を活用していただきたいです。

女性は、どの年代も被保険者の約50%が健診を受診しています。

(2) 特定健診の結果



平成22年度特定健診年齢別有所見者数

年齢	男性			女性		
	1位	2位	3位	1位	2位	3位
40～49歳	LDL	GPT	腹囲 中性脂肪	LDL	最高血圧	腹囲
50～59歳	LDL	腹囲	HbA1c	LDL	HbA1c	最高血圧
60～69歳	腹囲	空腹時血糖	HbA1c	最高血圧	HbA1c	LDL
70～74歳	最高血圧	腹囲	空腹時血糖	最高血圧	HbA1c	空腹時血糖
総計	腹囲	最高血圧	LDL	最高血圧	LDL	HbA1c

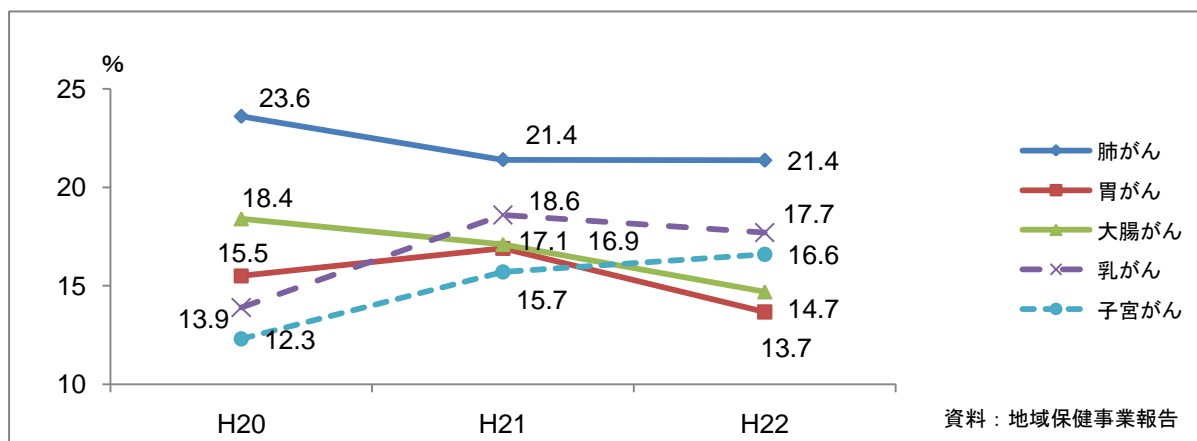
健診の有所見者*の割合は、血圧を除いて、すべての項目で男性の割合が女性の割合に比べて高くなっています。血圧、中性脂肪、LDLなどの血中脂質の治療者は女性の方が多いです。

年代別にみると、男性の若年層はLDLが高く、加齢とともに腹囲や最高血圧の有所見が増加しています。女性も若年層はLDLが高く、60歳代を越えると最高血圧が高くなっています。

50歳以降はHbA1cの割合が高くなっています。

***有所見者とは：検査値が正常範囲から外れている者。**

(3) がん検診の受診率の推移



がん検診は、子宮がん検診以外は受診率の低下がみられています。平成20年以降、特定健診の開始により社会保険や共済保険の本人の方が特定健診と同時に受診できなくなってしまうことも影響していると思われます。がん検診については国の目標受診率50%に到達していません。